

図画工作科・美術科 実態調査の実施にあたって

I 実施方法

1. それぞれの児童生徒の段階を、「A表現」、「B鑑賞」、の2つの領域と〔共通事項〕に沿って観点別に把握する。
2. それぞれの段階の指導事項の調査項目にしたがい、○や△を記入する。
(○は調査項目を達成しており、いつでも、一人でもできるものにつける。
△は教師の支援によってできるや、条件つきでできるなどにつける)
3. △がついた場合には、どんな条件だとできるかを端的に記入する。
4. △の部分や無印の部分について、今後指導計画に入れることを検討する。

II 留意点

図画工作科・美術科 実態調査表を使用するにあたり、以下の点に留意をする。

○「A表現」の知識及び技能の指導事項は技能であり、共通事項の知識及び技能の指導事項は知識である。

○図画工作科・美術科の「A表現」の技能の調査項目については、あくまで、児童生徒の表現の選択肢を広げるために考えられるものであり、全て取り扱わなければならないということではない。

○調査に際しては、できあがった作品だけで判断をせずに、制作の過程での様子から判断をできるようにする。

○現状、指導要領解説等から、調査項目を作成しているので、分かりづらい部分がある。

※今後、より具体的な子どもの姿として、表すことができるように調査項目を改訂してい

く必要がある。

A表現

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能(技能)		判定
			調査項目		
小1段階	形や色などに気付き、材料や用具を使うようにする。	身の回りの自然物に触れながら、切る、ぬる、はるなどをすること	土や粘土などの自然物に触れて、形の感じや質感をとらえたり、材料を見つめながら色の変化に気付いたりすることができる。		
			用具や手指などを使って自由に線や形をかきことができる。		
			ものをつぶすことができる。		
			ものを伸ばすことができる。		
			ものをちぎることができる。		
			ものを丸めることができる。		
			ものを破ることができる。		
			ものを接合することができる。		
			ものを積み上げることができる。		
			ものを並べることができる。		
			ものに穴をあけることができる。		

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等		判定
			調査項目		
小1段階	表したいことを思い付いたり、作品を見たりできるようにする。	材料などから、表したいことを思い付くこと	材料を使って遊んでいる。		
			材料を積み上げたり、重ねたりしている。		
			小石の形や木の葉の色の違いに気付いている。		
			材料を組み合わせて並べたりしている。		
			手を動かして色や形の変化から新しいものを発想している。		
			材料を繰り返し破いて感触を確かめている。		
			材料をちぎったり、丸めたりなどして形を変えている。		

活動例
・造形あそび ・形の異なる小石や、様々な色の木の葉で遊ぶ活動 ・紙を破いて手応えを楽しむ活動 ・線を引き、絵をかきなどの活動 ・身の回りがある土、粘土、砂、小石、木の葉、小枝、木の葉、貝殻、雪や氷、水といった自然物に触れる活動 ・地面や壁、机や廊下の床板、新聞紙などにかく活動 ※用具は、ペンやクレヨン以外にも手指、棒きれなども含める

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能(技能)		判定
			調査項目		
小2段階	形や色などの違いに気付き、表したいことを基に材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるようにする。	身近な材料や用具を使い、かいたり、形をつくり出すこと	身近な自然物(土、砂、石、粘土、草木など)を使って表すことができる。		
			人工の材料(紙、新聞紙、段ボール、布、ビニル袋やシート、包装紙、紙袋、アルミ箔、空き缶、縄やひも、空き箱、スチレンボード、プラスチック)でつくること。		
			器物の型押しやスタンピングで模様をつくること。		
			簡単な形に表し、形に意味づけすることができる。(○を描いてボールと言うなど)		
			クレヨンやバスを使うことができる。		
			水彩絵の具を使うことができる。		
			カラーペンを使うことができる。		
			のり、ボンドなどの接着剤を使うことができる。		
			ステープラーを使うことができる。		
			はさみを使うことができる。		
			へらを使うことができる。		
			シャベルを使うことができる。		

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等		判定
			調査項目		
小2段階	表したいことを思い付いたり、作品などの面白さや楽しさを感じ取ったりすることができるようにする。	材料や、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思い付くこと	見たものや見たことを表している。		
			うれしかったことや驚いたことなどの、体験したことをもとに絵や形で表している。		
			大きいと思ったものを大きくするなど特徴を捉えて表している。		

活動例
(表現された内容が見るものに伝わる段階) ・身近な出来事や思ったことを基に絵をかき、粘土で形をつくる活動 ・第1段階の材料から表したいことをイメージすることに加え、うれしかったこと、不思議に思ったこと、驚いたことなど体験したことを表す活動 ・感じたことや関心のあることから、想像したことを表す活動 ・身近な人、動植物、自然、体験したことなどを題材に、クレヨンやバス、水彩絵の具、カラーペンなどを使って表現する活動

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能(技能)		判定
			調査項目		
小3段階	形や色などの造形的な視点に気付き、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるようにする。	様々な材料や用具を使い、工夫して絵をかいたり、作品をつくり出すこと	身近にある土、砂、石、粘土、草木を使って表すことができる。		
			紙、布、積み木、アルミ箔、空き缶、スチレンボード、針金、プラスチック、ゴムなどでかいたりつくり出すことができる。		
			かなづちを使うことができる。		
			ペンチを使うことができる。		
			のこぎりを使うことができる。		
			くぎを扱うことができる。		
			ねじを扱うことができる。		
			接着剤を使うことができる。		
			その他の簡易な木工加工用具、金属加工用具(やすりなど)を使うことができる。		
			クレヨンやバスの色を選び表し方を工夫して表すことができる。		
			紙の切り方を工夫して表すことができる。		
			粘土を丸めたり、ひねりだしたりして工夫して表すことができる。		

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等		判定
			調査項目		
小3段階	造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	材料や、感じたこと、想像したこと、見たこと、思ったことから表したいことを思い付くこと	見たものから想像するものを表している。		
			見たものから感じたことや思ったことを表している。		
			見たものの印象から表し方を表している。		
			感じたことや想像したことを表している。		

活動例
・日常生活の出来事や思ったことを基に絵をかいたり、作品をつくり出す活動 ・身近にある土、砂、石、粘土、草木、紙、布、積み木、アルミ箔、空き缶、スチレンボード、針金、プラスチック、ゴムを材料とし、2段階の道具に加え、かなづち、ペンチ、のこぎり、くぎ、ねじ、接着剤を使う活動

A表現

段階	知識及び技能(技能)		
	段階の目標	指導事項	調査項目
中1段階	造形的な視点について気付き、材料や用具の扱い方にも親しむとともに、表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。	材料や用具の扱いに親しみ、表したいことに合わせて、表し方を工夫し、材料や用具を選んで使い表すこと	水彩絵の具を使いながら水の加減や色の混ぜ方を工夫することができる。
			表したいことに合わせて道具や材料を使うことができる。(金づちを使いながら意図的に釘を並べるように打っているなど)
			水彩絵の具、ポスターカラー、色鉛筆、ペン、パステル、色紙など、描画材の特徴に合わせて使うことができる。
			水彩絵の具、ポスターカラー、色鉛筆、ペン、パステル、色紙などから表したいことに合うものを選択することができる。
			表したいことに合わせて、粘土、木、石、紙などから、素材を選ぶことができる。
			釘、彫刻刀、金づち、のこぎりなどの用具の扱い方を理解することができる。
			釘、彫刻刀、金づち、のこぎりなどから表したいことに合うものを選択することができる。
中2段階	造形的な視点について理解し、材料や用具の扱い方などを身に付けるとともに、多様な表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。	材料や用具の扱い方を身に付け、表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かしたり、それらを組み合わせたりして計画的に表すこと	新しく経験した用具(水彩絵の具、塗装用具、接着剤、彫刻刀、簡易な木材・金属加工用具、電動の糸のこぎり、研磨機など)についての扱い方を理解し、表現に使うことができる。
			表現しようとする意図や用途や目的に合わせて、取り扱う材料や用具を選んだり、組み合わせたりして、計画的に表すことができる。
			鋭い感じ、滑らかな感じ、重さ、丈夫さなどの材料の特徴を表現に生かすことができる。
			削る、つなぐなどの用具の特徴を生かして使うことができる。
			のこぎりで板材を切ることができる。
			板を釘でとめることができる。
			刷毛で太い線や面をかくことができる。
			粘土、紙、石、布、木、金属、プラスチック、スチレンボード、ニス、水性・油性塗料などを材料として描くことができる。(表現の目的に合わせて、建築土木工業用資材も含む)
			水彩絵の具、塗装用具、接着剤、彫刻刀、簡易な木材・金属加工用具、電動の糸のこぎり、研磨機などの電動工具を使うことができる。
			使いたい用具から材料を選ぶことができる。
材料を試しながら用具を選ぶことができる。			

段階	思考力、判断力、表現力等		
	段階の目標	指導事項	調査項目
中1段階	造形的なよさや面白さ、表したいことや表し方などについて考え、経験したことや思ったこと、材料などを基に、発想し構想するとともに、身近にある造形や作品などから、自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。	経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること	体験した出来事(得た知識や技能を含めた経験)を基に発想している。
			自分のイメージに合った表し方を選んでいる。(雨を点々と表すなど)
			一番表したいことを決めてから表している。
参考作品などから、自分の表したいものを決めている。			

段階	思考力、判断力、表現力等		
	段階の目標	指導事項	調査項目
中2段階	造形的なよさや面白さ、表したいことや表し方などについて考え、経験したことや想像したこと、材料などを基に、発想し構想するとともに、自分たちの作品や美術作品などに親しみ、自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。	経験したことや想像したこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること	体験を基に感じたことや考えたこと、実際にはあり得ないことや、自分の思いや願いを思い浮かべ、発想や構想している。
			自分の表したいことや用途などを考えながら、それを基に、新しいことを発想や構想している。
			どの色とどの色が合うのかを考えてから色を選んでいる。
			仕掛けや動く仕組みを工夫している。
			表したいことに合った材料を集めている。
教師の共感的な言葉がけにより、イメージを少しずつはっきりとさせている。			

活動例
<ul style="list-style-type: none"> ・絵で表す活動 ・静物画 ・風景画 ・感想画 ・想像画 ・対象をよく見て、形や色彩をとらえる活動 ・版画で表す活動 ・木版画、ゴム版、スチレンボード版など ・デザインをする活動 ・ポスター、案内表示・標識、表紙装丁デザイン、カット、模様・装飾 ・自然の形や幾何学的な形を並べたり、繰り返したりして模様や装飾を作る活動 ・知らせる事項を考え、形や色彩の組み合わせを工夫するポスターをデザインする活動 ・彫刻、立体制作 ・人、動物、乗り物、建物をつくる活動 ・工芸 ・箱、筆立て、ペン皿、焼き物の器物 ・飾る活動 ・教室や廊下の掲示板上に展示する。 ・実際に作ったものを使う活動
<ul style="list-style-type: none"> ・1段階のものに加え、自然や日常生活の中にも身近な対象や経験、想像したことなどを基に表したいことや表し方を考えて発想する活動 ・簡単な絵や図でかきとめたり、直接材料を置いて、表し方やつくり方を決めたりするなどしながら、次第に自分の考えをはっきりさせていく活動 ・1段階のものに加え、表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かしたり、それらを組み合わせたりして計画的に表す活動

A表現

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能(技能)	調査項目	判定	段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定	活動例		
高1 段階	造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫することができるようにする。	材料や用具の特性の生かし方などを身に付け、意図に応じて表現方法を工夫して表すこと。	水彩絵の具やポスターカラー絵の具、墨、色鉛筆、ペン、パステル、色紙の特徴を理解して使い分けができる。	自然や人物、動植物、身近にあるものや出来事から、形や色彩を感じ取り表現している。		造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化などに対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	対象や事象を見つめ感じ取ったことや考えたこと、伝えたり使ったりする目的や条件などを基に主題を生み出し、構成を創意工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。	見ることや考えたこと、伝えたり使ったりする目的や条件などを基に主題を生み出し、構成を創意工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。	形や色彩のもたらす様々なよさ、雰囲気、情緒、美を感じ取り工夫している。		見ることや考えたこと、伝えたり使ったりする目的や条件などを基に主題を生み出し、構成を創意工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。	体験などを基に感じたことや考えたこと、実際にはあり得ないこと、自分の思いや願いなどを思い浮かべ表している。		・粘土や段ボール、厚紙など、材料を限定し立体作品を作る活動 ・既存の色や常識的な色にとらわれず、自由な色で絵を描く活動 ・実際に色をつくる活動を取り入れる活動 ・人物画、静物画、風景画、想像画、版面(木版、紙版、ゴム版、ステンレポード版) ・ポスター、案内表示、標識、表紙装丁デザイン、カット、模様・装飾 ・立体制作(人物、動植物、乗り物、建築物) ・織物、紙工、木工、金工、七宝焼き、焼き物
				自分の意図に応じて形や色彩を工夫して表すことができる。	見る人や使う人の立場を考えて工夫している。					気持ちや情報を伝えようとしている。				
				大まかな遠近感を表現することができる。	いつ、どこで、だれが使うかなど、場面に合わせて使いやすく工夫している。					つくりながら主題を明確にしている。				
				簡単な立体感のある絵を描くことができる。						自分の表したいイメージに合わせて構成の仕方を工夫している。				
				いろいろな角度から形体を捉えることができる。										
				既存の色ではなく感じた色で表現することができる。										
高2 段階	造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すことができるようにする。	材料や用具の特性の生かし方などを身に付け、意図に応じて表現方法を追求し、自分らしさを発揮して表すこと。	現状に満足せずに、よりよいもの、より美しいものつくろうとすることができる。	表面的な形や色彩を捉えるだけでなく、対象の内面を捉えている。		造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化などに対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、伝えたり使ったりする目的や条件などを基に主題を生み出し、構成を創意工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。	社会的な出来事や場面、学校に関わる人々や地域の人々などに向けて気持ちや情報を伝えようとしている。	身の回りの出来事や身近な人だけでなく社会性や客観性を意識して、見る人や使う人の立場に立ち工夫している。		使用する人の気持ちや使いやすさを考慮したデザイン、多様な人々が共有できる機能について考えている。	主題を基に自分の思いや願い、よさや美しさへのあこがれを入れて構想している。	・鏡を見て、自分の内面までも表現するような自画像を制作する活動 ・ユニバーサルデザインの工芸品を作成する活動 ・表現方法を試すことができる場を設定したり、性質や特徴の違う材料を扱った活動 ※「白磁賞」と関連させて、既存の表現方式にとらわれないように、様々な作風や様式について学ぶ機会を設定する	
				自分らしさを大切に、創造的に表すことができる。										
				新しい表現方法を試そうとすることができる。										

B鑑賞

思考力, 判断力, 表現力等				
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小1 段階	表したいことを思い付いたり, 作品を見たりできるようにする。	身の回りにあるものなどを見ること。	目の前に提示したものを見たり, 触ったりしている。	
			いろいろな材料を見たり, 触ったりしている。	
			友だちの作品を見たり, 触ったりしている。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小2 段階	表したいことを思い付いたり, 作品などの面白さや楽しさを感じ取ったりすることができるようにする。	身近にあるものなどの形や色の面白さについて感じ取り, 自分の見方や感じ方を広げること。	手に取ったものの形を面白いと感じたり, 心地よいと思ったりしている。 (ずっとにぎる, 繰り返し触る, なでるなど)	
			作品や材料について自ら進んで見る, 触る, 話すなどしている。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小3 段階	造形的なよさや美しさ, 表したいことや表し方をなどについて考え, 発想や構想をしたり, 身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	自分たちの作品や, 日常生活の中にあるものなどの形や色, 表し方の面白さなどについて, 感じ取り, 自分の見方や感じ方を広げること。	自他の作品に題名や名前を付けている。	
			作品を飾っている。	
			作品を見ながら表現した内容を説明したり聞いたりして, 形や色, 表し方の面白さについて感じ取っている。	
			自分たちの作品や生活の中にあるものなどについて違う見方や感じ方をしている。	

活動例/留意事項
※子どもの興味関心のあるものを題材として扱うようにする
活動例/留意事項
・自ら動きかける能動的な鑑賞活動 ※触っても良いものを鑑賞する活動に取り入れる(指先で触れる, 手のひらで包み込むように触る, 抱きかかえるように触る, 持ち上げるなど)
活動例/留意事項
※材料置き場を工夫し, 材料を取りに行く際に, 作品を鑑賞できるようにしたり, 席を班の形にして, 互いの作品が目に入るようにする ※作品の置き場も工夫し, 鑑賞できるようにする

B鑑賞

思考力, 判断力, 表現力等				
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
中1段階	造形的なよさや面白さ, 表したいことや表し方などについて考え, 経験したことや思ったこと, 材料などを基に, 発想し構想するとともに, 身近にある造形や作品などから, 自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。	自分たちの作品や身近な造形品の制作の過程などの鑑賞を通して, よさや面白さに気づき, 自分の見方や感じ方を広げること。	自分の作品や友だちの作品の良さに気付いている。(伝えたり選んだりするなど)	
			参考作品や, 日用品, 伝統的な玩具などの良さに気付いている。(伝えたり選んだりするなど)	
			対象について自分の見方や感じ方で捉え, 意味づけをしている。(「～みたい」と言うなど)	
			制作中に, 材料を手に取り眺めている。	
			制作の途中で材料を取り換えている。	
			用具や表し方による印象の違いに気付いている。(作品を見て好きな用具を選ぶなど)	
中2段階	造形的なよさや面白さ, 美しさ, 表したいことや表し方などについて考え, 経験したことや想像したこと, 材料などを基に, 発想し構想するとともに, 自分たちの作品や美術作品などに親しみ自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。	自分たちの作品や美術作品などを鑑賞して, よさや面白さ, 美しさを感じ取り, 自分の見方や感じ方を深めること。	生活の中の造形物の良さを感じている。(気に入ったデザインを見付けるなど)	
			国内, あるいは諸外国の親しみのある美術作品のよさを感じている。(有名な絵画や彫刻を見て, 感想を言ったり質問したりして興味を示すなど)	
中2段階	造形的なよさや面白さ, 美しさ, 表したいことや表し方などについて考え, 経験したことや想像したこと, 材料などを基に, 発想し構想するとともに, 自分たちの作品や美術作品などに親しみ自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。	自分たちの作品や美術作品の, 表現方法や使われている材料などから, 形が作り出す動きを捉えている。(作品を見て「走りだしそう」や, 「流れてみたい」と話すなど)	対象がもつ形や色彩などのよさや面白さ, 美しさを感じている。(「この作品の○○色がきれい」と言うなど)	
			作品に対する友だちの意見を聞いて, 自分の考えに付け加えて話したり, 自分の意見を変えたりして感想を伝えている。	
			自分たちの作品や美術作品の, 表現方法や使われている材料などから, 色の調子の多彩さを捉えている。(作品を見て色が薄い濃いやあざやかななどの感想を言っている)	
			自分たちの作品や美術作品の, 使われている材料などから, 材質の質感による効果を捉えている。(硬くて冷たそう, ふわふわして優しい感じなど)	
			形が作り出す動き, 色の調子の多彩さ, 材質の質感が組み合わさって生まれる変化を捉えている。(形, 色, 材料に着目して, 「○○を使っていて～な感じがする」と話しているなど)	
			これまでに見たり使ったりしたことのある作品や材料にも, 自身の経験や友だちの意見などで, 違った見方や感じ方で捉え直している。	

活動例/留意事項
・共通事項のアと関連させて, 形や色彩に着目する活動 ・友だちの作品を見る活動 ・友だちとの共同制作 ※1単位時間の導入で, 制作途中の作品を見合う時間を設定する
活動例/留意事項
※国内, あるいは諸外国の親しみのある美術作品のつくりだされる過程を紹介するようにする ※生活の中で見られる美術の働きを取り上げて紹介するようにする ・作品に対して感じたことや考えたことを話し合う活動 ・発想や構想の表したいことなどについての学習を生かして作品を鑑賞する活動 ※校外学習で美術館に行き作品に触れる機会をつくるようにする ・実際の作品の大きさや質感に近い複製や作品の特徴がよく表している印刷物, ビデオ, コンピュータを使った鑑賞の授業

B鑑賞

		思考力, 判断力, 表現力等		
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
高1段階	造形的なよさや美しさ, 表現の意図と工夫などについて考え, 主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり, 美術や美術文化などに対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り, 作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして, 見方や感じ方を広げること。	対象から自分の感覚で素直に形や色彩のよさや美しさを感じ取っている。(作品や材料などを見て形や色に着目して感想を言うなど)	
			作品から作者の意図や, 発想, 作品に込められた心情, 作品によって何を表現したかったかという意図を捉えている。(感想を伝えているなど)	
			作品や作者から, それが, どのように表現されているかを言葉で表している。	
			工芸作品から, 使う人に対する作者の温かい心遣いなどを感じ取っている。(作者がこだわった使いやすさやデザイン性に気付いているなど)	
			対話する中で作品に対する表現の意図や工夫についての考え方を広げている。(友だちの作品に対する意見を聞き, 自分の意見に取り入れているなど)	
			身の回りにある身近な風景や自然現象, 街で見られる人工物などについて形や色彩, 材料などの視点で意識して捉えている。(人に伝えているなど)	
高2段階	造形的なよさや美しさ, 表現の意図と創造的な工夫などについて考え, 主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり, 美術や美術文化などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	生活の中の美術や文化遺産などのよさや美しさを感じ取り, 生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化について考えるなどして, 見方や感じ方を広げること。	身の回りにあるものの形や色からメッセージを受け取っている。(初めて見る看板などから「～色をしているから～」みたいと言うなど)	
			文化遺産などからその特性や, よさに気付き, 美術文化と伝統を実感的に捉えている。(複数の美術作品を見て, 似ているところや特徴を言うなど)	
			文化遺産のよさや美しさから, 美術文化について考え, 見方や感じ方を広げている。(様式の異なる複数の美術作品を見て, 好きな様式を選んでいるなど)	
			対象の形や色彩などの特徴や印象などから内面や全体の感じ, 価値や情緒などを感じ取っている。(色や形から「怖い感じ」や「楽しそうな感じ」と言うなど)	
			作者の生きた時代背景や社会的な背景など幅広い視点から作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考えている。(作品ができた背景を聞き, 自分の感想に意見を足したり, 変えたりしているなど)	
			デザインや工芸作品などから使う人や場を考えた作者の心遣いや作品の主題や表現の意図に基づいた創造的な工夫について捉えている。(作者がこだわった作品の工夫や使いやすさやデザイン性を読み取っているなど)	
高2段階	生活や社会の中の美術や文化遺産などのよさや美しさを感じ取り, 生活や社会を美しく豊かにする美術の働きや美術文化について考えるなどして, 見方や感じ方を深めること。	生活や社会の中の美術や文化遺産などのよさや美しさを感じ取り, 生活や社会を美しく豊かにする美術の働きや美術文化について考えるなどして, 見方や感じ方を深めること。	主題などに基づき, 作品の背景を見つめたり自分の生き方との関わりの中で作品に対する姿勢を捉えたりする中で, 表現の意図や創造的な工夫について考えている。(題名や作品を見て, こういう思いもあったのではないかと考えたり, 共感したりする姿が見られるなど)	
			動植物や自然物, 四季や自然現象, 風景などから自然や公園, 建造物や街並みなどに見られる造形的な美しさを感じ取っている。(色, 形, 材質などの視点で感想を伝えているなど)	
			美術作品や身の回りの環境を自然との調和の視点で捉えている。(設置や配置された環境も含めて感想を言っているなど)	
			形, 色彩, 材料, 光, 空間, などによる明るい開放感や落ち着いた雰囲気, 自然や優しさのある環境について造形的や美術的な視点で捉えている。(「～だから(色や形などの視点)落ち着く」と感想を言っているなど)	
			日本及び諸外国の美術文化のよさや美しさを感じ取り, 生活や社会を豊かにする美術の働きについて考え伝えている。(飾ったりすることの良さを説明しているなど)	

活動例
<ul style="list-style-type: none"> 対象をじっくりと見つめる活動 形や色彩, 材料などに視点を置いて, 作品を見たり感じ取ったりする活動 友だちと作品の表現の意図や工夫について話合う活動 形や色彩などのテーマに沿って, 身近なものをカメラで撮影し記録する活動 文化遺産の鑑賞
<ul style="list-style-type: none"> 自分の中に作品の新しい価値を作り出す活動 生徒の興味関心を踏まえたテーマ設定による鑑賞 日本文化について取り上げ, その特質に触れるとともに, 現代においても, 大きな意味をもつことに気付く活動 制作の過程で作った作品を相互に鑑賞する活動

共通事項

段階	知識及び技能(知識)		判定
	段階の目標	調査項目	
小1段階	形や色などに気づき、材料や用具をばらばらとずらすようにする。	自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などについて気づくこと。	見たり触ったりしてものの形に気づくことができる。
			見たりかいたりして線に気づくことができる。
			見たり並べたりして色に気づくことができる。
			手や体で触ってものの感触に気づくことができる。
段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小2段階	形や色などの違いに気づき、表したいことを基に材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるようにする。	自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などの違いに気づくこと。	見たり触ったりして形や色が似ているか似ていないかに気づくことができる。
			見たり触ったりして大きい小さいを捉えることができる。
			見たり触ったりして長い短いを捉えることができる。
			見たり触ったりして丸、三角、四角などを大まかに捉えることができる。
段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小3段階	形や色などの造形的な視点に気づき、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるようにする。	自分の感覚や行為を通して、形や色などの違いに気づくこと。	板材などの材料や自分の作品などを見たり、触ったりすることで形の感じに気づくことができる。
			絵の具や自分の作品などを見たり、触ったりすることで色の感じに気づくことができる。
			材料を切るなどの行為や活動を通して、形の感じやそれらを組み合わせる感じに気づくことができる。
			絵の具を混ぜるなどの行為や活動を通して、色の感じに気づくことができる。
			作品の面と面から生まれる前後の感じに気づくことができる。
			色の明るさによる感じの違いに気づくことができる。
			材料の組み合わせによる質感の違いに気づくことができる。

段階	思考力、判断力、表現力等		判定
	段階の目標	調査項目	
小1段階	表したいことを思い付いたり、作品を見たりできるようにする。	形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。	自分が捉えた形、線、色、触った感じなどを基に、自分のイメージをもっている。(自分の言葉で置き換えたり、体で表現したりしているなど)
小2段階	表したいことを思い付いたり、作品などの面白さや楽しさを感じ取ったりすることができるようにする。	形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。	捉えた形から自分のイメージをもっている。(雲を見て「わたあめみたい」と言うなど) 捉えた色から自分のイメージをもっている。(色水を見て「ジュースみたい」と言うなど)
小3段階	造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方をなどについて考え、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。	形の感じや自分の思いや経験などを手掛かりに、自分のイメージを持っている。(粘土をかき出して大きな穴を開けたら、穴の中に住む生き物を思いついたなど) 色の感じや自分の思いや経験などを手掛かりに、自分のイメージを持っている。(絵の具のにじんだ様子を生かして不思議な世界を表したなど) 形や色の感じや自分の思いや経験などを手掛かりに自分のイメージを持っている。(材料が白くてふわふわしていたから、ウサギを思いついたなど)

活動例
表現及び鑑賞の活動における。 ・色や形に着目する活動 ※「形はどれにしようか」「色はどれにしようか」などの言葉がけを教師が行うようにする ・大きな紙に線をかく活動
活動例
表現及び鑑賞の活動における。 ・児童の好きなもの、見たことあるもの、心地よいものなどに触れる活動
活動例
表現及び鑑賞の活動における。 ・絵の具を混ぜる活動 ・水彩絵の具に入れる水の量を自分で決める活動 ・板材を組み合わせる活動 ・たくさんの材料から発想する活動

共通事項

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能(知識)	
			調査項目	判定
中1段階	造形的な視点について気づき、材料や用具の扱い方に親しむとともに、表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。	形や色彩、材料や光などの特徴について知ること。	形や色彩や光の特徴に気付くことができる。	
			形や色彩や光の特徴が表現や鑑賞の手掛かりになることに気付くことができる。	

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能(知識)	
			調査項目	判定
中2段階	造形的な視点について理解し、材料や用具の扱い方などを身に付けるとともに、多様な表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。	形や色彩、材料や光などの特徴について理解すること。	造形の要素に着目し、形や色彩、材料、光などの特徴について感覚や行為を働かせ、創造活動を通して実感を伴いながら理解することができる。	
			「ここは動いている雰囲気にしたらいから勢よく描こう」や「この材料とこの材料を組み合わせると、印象はどうなるだろう」などと発想や構想をすることができる。	
			「ずっと奥に行けるような感じ」「絵の具で描いたのに布を張ったように見える」などの見方や感じ方で鑑賞することができる。	

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	
			調査項目	判定
中1段階	造形的なよさや面白さ、表したいことや表し方などについて考え、経験したことや思ったこと、材料などを基に、発想し構想するとともに、身近にある造形や作品などから、自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。	造形的な特徴などからイメージをもつこと。	造形的な特徴などを基に見立てたイメージを持っている。(～みたいでかわいいなどの具体的なイメージを持つなど)	
			造形的な特徴などから心情などを関連づけてイメージをもっている。(～だからさみしいなどの具体的なイメージを持つなど)	
			見方を変えるなどして新たな視点に気付いたり深めたりしている。(他者と伝え合ったり、根拠を話し合ったりするなど)	

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	
			調査項目	判定
中2段階	造形的なよさや面白さ、表したいことや表し方などについて考え、経験したことや想像したこと、材料などを基に、発想し構想するとともに、自分たちの作品や美術作品などに親しみ自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。	造形的な特徴などからイメージを捉えること。	作品の一部分だけでなく、全体に着目して造形的なイメージを捉えている。	
			対象を具体物に見立てている。(この木の葉は手に見えるなど)	
			対象を心情と関連付けて全体を見つめている。(絵から感じられる寂しさが、夕焼けの景色を見た情景と似ているなど)	

活動例
表現と鑑賞の活動における。 ・作品についての印象を他者と印象を伝え合う活動
表現と鑑賞の活動における。 ・作品や素材などを具体物に例えたり、心情と関連付けたりする活動

共通事項

段階	知識及び技能(知識)			
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
高1段階	造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫することができるようにする。	形や色彩、材料や光などの働きを理解すること。	作品を見て色彩の色味や明るさ、鮮やかさ、材料の性質や質感などの働きについて実感を伴いながら理解することができる。(他の作品の表現の良さをとらえ、効果的に自分の作品に取り入れることができるなど)	
			形の優しさ、色の楽しさや寂しさ、木の温かさ、光の柔らかさ、形や色彩の組み合わせによる美しさなどについて実感を伴いながら理解することができる。((試みに差りながら)楽しい感じにしたいから〇色を使おうとするなど)	
高2段階	造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すことができるようにする。	形や色彩、材料や光などの働きを理解すること。	色彩の色味や明るさ、鮮やかさ、材料の性質や質感などの働きについて理解を深めることができる。(この材料と色の組み合わせたとこうなるからこの部分に使おうなど)	
			形の優しさ、色の楽しさや寂しさ、木の温かさ、光の柔らかさ、形や色彩などの組み合わせによる美しさなどについての理解を深めることができる。((計画的に)楽しい感じにしたいから〇色を使おうとするなど)	

段階	思考力、判断力、表現力等			
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
高1段階	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化などに対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	造形的な特徴などから全体のイメージで捉えることを理解すること。	造形的な特徴を基に、見立てたり、心情などと関連づけたりして全体のイメージを捉えている。(形や色の特徴から「〇〇みたい」と見立てたり、「悲しい感じ」などと感想を伝えたりするなど)	
			作風などの視点で実感を伴いながら捉えている。(複数の作品から同じ作者の作品を見つけたりするなど)	
高2段階	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	造形的な特徴などから全体のイメージで捉えることを理解すること。	造形的な特徴を基に、見立てたり、心情などと関連づけたりして全体のイメージを捉えることを理解して対象を見つめている。(作品を見る際に色や形に着目するとよいことを分かっから作者の意図を捉えようとするなど)	
			作風や様式などで捉えるという理解から「霧のかかった景色が水墨画のようだ」や「この作品は印象派の雰囲気がある」など全体を文化的な視点で捉えている。	

活動例
表現と鑑賞の活動における ・全体のイメージや作風で捉える学習活動
活動例/留意事項
表現と鑑賞の活動における ・全体のイメージや作風で捉える学習活動 ※美術の文化を一方的に知るのではなく、自分が直感的に感じたことも大事にしていくこと